

**1 単元名** 鑑賞して良さを表現しよう**2 言語活動とその特徴**

本単元では、言語活動として「自分の好きな歌や本、映画の鑑賞文を書き、ジャケットや帯にまとめる」ことを位置付けた。鑑賞文を書くには、作品のテーマや良さ、表現の特徴など伝えたい内容を整理し、内容のまとまりごとにいくつかの段落に分ける活動を行うことになる。また、読み手を意識して、的確な言葉遣いや効果的な表現などを用い、分かりやすい文章にする必要もある。このことから、「集めた材料を分類するなどして整理するとともに、段落の役割を考えて文章を構成すること」(B書くことイ)と「書いた文章を読み返し、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、読みやすく分かりやすい文章にすること」(B書くことエ)を実現するのにふさわしい言語活動であると考える。

**3 単元について**

## (1) 生徒観

1学期末テストの条件作文の結果を以下に示す。課題は、「中学校に入ってがんばった係活動について」である。  
(平成\*\*年\*月\*\*日実施\*\*名)

条 件	正答率 (%)
①2段落構成とし、1段落目には1学期の係活動でがんばったことを書きなさい。	* * . * %
②2段落目には、2学期以降クラスを良くするために自分が行いたいことを書きなさい。	* * . * %
③誤字や脱字をしないこと。	* * . * %
④主語と述語の関係に気を付けるなど文法の間違いをしないこと。	* * . * %
⑤作文用紙の書き方に従って書くこと。	* * . * %

これを見ると、③と⑤の正答率が低いことが分かる。そこで、推敲のポイントを押さえる必要があると考える。また、構成についても指導していく必要もあると考えた。

## (2) 教材観

本教材では、鑑賞文やキャッチコピーを書く活動を通して、材料を整理し、文章を構成する力や、表現を磨き上げていく力を養うことをねらいとしている。作品の良さを伝えるという目的に沿って、「はじめの一歩！」ではキャッチコピーの作り方、次に作品の分析、内容の整理、下書き、意見交換、最後に清書というように、順序よく作品完成に向けて活動することができる内容になっている。鑑賞文を書くという生徒には一見難しそうな内容を、CDジャケット作成という生徒の興味・関心を喚起し、順を追った分かりやすい活動と意見交換活動によって、取り組みやすいものにしている。そのため、生徒は意欲をもち続けながら、構成の力や推敲の力を身に付けることができると考える。

## (3) 指導観

多くの生徒は、文章を書く活動に消極的である。そこで、本単元では、生徒の「書きたい」という意欲を喚起させたいと考え、好きな歌や、好きな本、好きな映画など鑑賞文を書く対象を幅広くした。好きな本の場合は帯作成、歌と映画の場合はCDジャケット、DVDジャケットとする。

ワークシートは、材料を集めやすいように、項目を立てて考えやすいものとし、生徒の幅広いものの見方や考え方を生かせるようにするために、自分で伝えたい項目も入れられるように作成する。また、材料を取捨選択するポイントを明示し、構成に沿って順番を書ける欄も設ける。

文字や表記の誤り、文法や叙述の仕方の間違いについては、これらの間違いを入れた短作文をいくつか提示し、間違い探しを行いながら、正しい文字や表記、文法や叙述の確認方法を指導する時間を設ける。また、学び合い活動の時間を設け、客観的に文章を読み、推敲する力を身に付けると共に、文章は、読み手を意識して、読みやすく分かりやすく書く必要があるのだということを認識させたい。

#### 4 単元の目標

関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>読みやすく分かりやすい鑑賞文を意識して、積極的に材料を集めようとする。</li> <li>他の生徒の作品を見て、今後の自分の表現に役立てようとする。</li> </ul>
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>読み手を意識して材料を取捨選択し、まとまりや順序を考えて文章を構成することができる。</li> <li>表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて分かりやすい文章を書くことができる。</li> </ul>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>指示語や接続語などの語句を適切に使って文章を書くことができる。</li> <li>比喩や倒置、反復などの表現の技法を工夫してキャッチコピー作成ができる。</li> </ul>

#### 5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
<ul style="list-style-type: none"> <li>読みやすく分かりやすい鑑賞文にしようと、積極的に材料を集めようとしている。</li> <li>他の生徒の作品を見て、今後の自分の表現に役立てようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>材料を取捨選択し、まとまりや順序を考えて文章を構成している。</li> <li>表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて分かりやすい文章にしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指示語や接続語などの語句を適切に使って文章を書いてている。</li> <li>キャッチコピー作成で、比喩や倒置、反復などの表現の技法を工夫している。</li> </ul>

#### 6 単元の指導計画（10時間扱い）

次	時	学習活動	評価規準	関	書	言
一	1	・学習活動の流れを確認する。	・学習活動の見通しをもち、鑑賞文やキャッチコピーを書く学習に意欲を示している。	○		
	2	・CDジャケットの手本を参考に、鑑賞文を書く練習を行い、読みやすく分かりやすい鑑賞文のポイントを見つける。				
二	3	・文章の間違い探しを行い、正しい文字や表記、文法や叙述の確認をする。	・正しい表記や語句の用法、叙述の仕方などを理解している。		○	
	4 5	・作品を決め、作品の良さを探る。 ・伝えたい内容を考えて整理する。 ・キャッチコピーを作る。	・作品を味わい、感じたことや気付いたことを意欲的に書いている。 ・鑑賞文の材料を書き出して整理し、鑑賞文の構成を決めている。 ・自分の感動を的確に表すキャッチコピーになるよう比喩や倒置、反復などの表現の技法を工夫している。		○	○ ○
三	6	・鑑賞文の下書きを書く。	・作品のよさを要素ごとに整理し、段落の役割を考えて文章を構成している。 ・作品のよさを表す語句を集め、文脈に応じて使い分けている。		○	○
	7 (本時)	・下書きを互いに読み合って、感動が伝わり、読みやすく分かりやすい鑑賞文になっているか意見交換をする。	・自分が伝えたい作品のよさが相手にも伝わるかを確かめて、自分の鑑賞文の改善点を見つけている。		○	
四	8 9	・前時の他者の意見を参考に推敲を行い、鑑賞文を清書し、ジャケットを完成させる。	・今まで学習してきたことを生かして、読みやすく分かりやすい作品を完成している。		○	
	10	・完成品を発表し合い、感想を書く。	・他の人の作品の良さを見つけ、今後の自分の表現に役立てようとしている。		○	

## 7 本時の学習

### (1) 目標

推敲の交流学習を通して、読み手を意識した分かりやすい鑑賞文の書き方を確認することができる。

### (2) 準備・資料

ワークシート・掲示物・活動の手順と確認事項を明記したプリント・自己評価カード

### (3) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点
1 本時の学習課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>交流学習を通して、読み手を意識した、分かりやすい鑑賞文を書くためのポイントを学ぼう。</p></div>	<ul style="list-style-type: none"><li>前時までの学習を振り返り、次時から鑑賞文の清書に入ることを確認することによって、本時の学習に意欲的に取り組めるようにする。</li><li>自分が伝えたいことと読み手の捉え方は違う場合があるから、他者の意見を聞いてより良い鑑賞文にしようと話し、生徒の意欲を喚起する。</li></ul>
2 鑑賞文を読み合い、意見交換をする。 (1) グループ活動の手順を確認する。 ① 他者の鑑賞文を読む。 ② 適切ではない語句や表現、分かりづらい所にチェックを入れ、アドバイスを記入する。 ※グループの人数分繰り返す。 ③ 自分の所へ戻ってきた鑑賞文を確認し、意見交換をする。 (2) 読みやすく分かりやすい鑑賞文のポイントを確認する。 ① キャッチコピーは工夫されているか。 ② 構成は要素ごとに分かれているか。 ③ 作品の内容は分かりやすいか。 ④ 作品の特徴や鑑賞文の書き手の感動は伝わるか。 ⑤ 書き手の推薦の根拠は明確か。 ⑥ 文章の表記上の誤りはないか。 (3) 手順に従って互いの鑑賞文をグループで読み合い、意見交換を行う。	<ul style="list-style-type: none"><li>手順を確認することによって、スムーズに活動に入れようとする。</li><li>ポイントを確認することによって、他者の鑑賞文を読む視点を明確にする。</li><li>手順とポイントは、黒板への掲示と、グループにも配付し、交流学習の最中に、いつでも確認できるようにする。</li><li>文法や表記の誤りが多い生徒には、具体的な直し方を助言する。</li><li>机間指導を行いながら、どういう点での間違いや課題があるかを確認し、必要に応じて教師からも助言する。</li><li>作文に直接コメントを書く欄を設け、自分に返ってきた時に、良いところや改善すべきところが明確になるようにする。</li><li>グループ活動の後に、自分の作文を振り返る時間を確保する。</li></ul>
3 学級全体で、グループで出された意見や助言を発表する。	<p>評価〔書くこと〕</p> <p>文章を書く時に、注意しなければならないポイントを理解している。(観察・ワークシート)</p>
4 自己評価カードの記入を行い、本時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"><li>グループの意見を全体で確認することによって、自分のグループ以外で出された意見も共有し、自分の表現の参考にするよう促す。</li><li>自己評価カードの記入を行い、本時の振り返りとする。</li></ul>